



【1】 一種研開催報告

2025年1月23日から24日にかけて、松江市の労働会館において、WPT研究会と併催、URSI-FとIEEE AP-S Kansai Joint Chapterの協賛で、A・P研究会の一種研が開催されました(写真1)。

A・P研究会では、電波伝搬オーガナイズドセッション「次世代無線システムにおける伝搬路制御技術」として10件の講演、チュートリアル講演1件、一般講演11件が行われました。また、WPT研究会では、WPT研設立10周年記念講演1件と一般講演4件が実施されました。さらに、URSI-F特別講演1件とIEEE AP-S Kansai Joint Chapter特別講演1件が行われ、合計29件の発表が行われました。

東京電機大学の今井哲朗教授(写真2)は、「量子アニーラを利用した伝搬解析法」と題し、レイトレーシング法における、量子アニーラを用いた多重散乱を伴う伝搬路探索の効率化についてわかりやすくかつ詳しく説明されました。



写真1 研究会の様子



写真2 左:A・P研究会委員長 榊原教授
右: 東京電機大学 今井哲朗 教授

【2】 URSI-F特別講演とIEEE AP-S Kansai Joint Chapterの特別講演

URSI-F特別講演では、大阪電気通信大前川泰之教授(写真3)が「長年にわたる大学での電波伝搬研究を振り返って」と題し、高周波帯の衛星電波が台風、雨など気象の影響をどう受けているのか30年以上に渡って研究成果を詳しく説明されました。

IEEE AP-S Kansai Joint Chapterの特別講演では、同志社大学の名誉教授笹岡秀一先生(写真4)が「電波伝搬特性に基づく秘密鍵共有における特性改善の検討」について説明されました。



写真3 大阪電通大 前川泰之教授講演様子

【3】 副委員長の戯言

◆ 松江城と出雲縁結び空港

松江城(写真5)は、今回のA・P研究会の会場から非常に近く、松江市のシンボルとして知られ、別名「千鳥城」とも呼ばれる国宝天守閣を持つ城です。江戸時代初期に堀尾吉晴によって築城され、日本に現存する12天守の一つとして高い歴史的価値を誇ります。周辺の城下町とともに、往時の風情を今に伝えています(写真6)。また、松江市に隣接する出雲大社も有名で、出雲空港は「縁結び空港」(写真7)と名付けられています。既に、A・P研究会とWPT研究会は10年以上ご縁があり、この松江の地での併催を機に、お互いにより良い相乗効果を発揮していくことを期待しています。



写真4 左:A・P研究会委員長榊原教授
中: 同志社大学 笹岡秀一名誉教授
右: AP-S Kansai Joint Chapters Chair 岩井教授

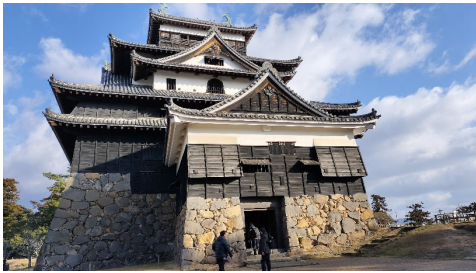


写真 5 国宝の松江城



写真 6 カラコロ広場(京店) 乗船場付近



写真 7 出雲縁結び空港

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微 (東北工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

